



# 九条の樹

東久留米「九条の会」ニュース 第24号  
2009年11月発行・東久留米「九条の会」  
代表者 古田足日・連絡先 鈴木TEL 042-473-9489  
<http://members2.jcom.home.ne.jp/hgsk9jk/>

## ◆創立四周年を

### ふりかえる

古田足日

東久留米「九条の会」は井上ひさし、大江健三郎、加藤周一さんたち九人の「九条の会」アピールに因りて、2005年2月20日に発足しました。呼びかけ人は45人でしたが、発足の集いに参加した人々は400人を超え、会場の市民プラザを埋めつくし、立ち見の人々もいる、熱気あふれる集いでした。

ぼくはこの創立集いで代表挨拶として、私たちはいま歴史の転換期に立っている、平和を選ぶか、戦争のできる国に逆戻りするの、その分かれ目に立っている。私たちの手でこれからの歴史をつくり、歴史を変えよう、と訴えました。

以来4年あまりの月日がたち、この間4人の自民党政権の首相が続きました。この時期

の最初の首相小泉純一郎は構造改革によって私たちの生活の基盤を破壊しました。続く安倍晋三はもつとも熱心な改憲派であり、小泉郵政選挙による衆議院の圧倒的多数派によって、教育基本法を改悪し、憲法を変えるための国民投票法を成立させました。しかし、今年2009年、長かった自民党政権は衆議院選挙で大敗し、その座を民主党に

## 私の主張

明け渡しました。劇的な政権交代でした。

交代を果たした民主党代表の鳩山由紀夫首相はその所信表明演説で「平成維新」ということばを使い、政治を、歴史を「変革」しようと呼びかけました。

一方ぼくが創立集いで話したように私たちも変革を願ってききました。私たちの求める「変革」と鳩山首相の求める「変革」に

は共通のものも多々あるかと思えます。では、鳩山首相は、民主党はこの歴史の転換期で、根本的なところで、平和を選ぶか、戦争のできる国に逆戻りするの、その分かれ目に立って、どういう意見を出し、どう行動をするのでしょうか。まず国民投票法の施行される来年5月のあり方を深くみつめていきたい、と思っています。

ふりかえると来年2月20日は創立5周年、長い戦いを続ける体力と構想力、思想の力を持ちたいと願っています。



### ◎毎月9日は

### 『9の日宣伝』

ごいっしょに参加しませんか！  
午後4時～5時

東久留米駅西口で

「憲法九条」を「守り」「広げる」  
宣伝をしています。



# 東久留米「九条の会」 4周年のつどい



10月18日、東久留米「九条の会」4周年のつどいが成美教育文化会館ホールで開かれ、

約三百人が参加しました。オープニングには、東久留米市内の保育士たちのコーラスグループ「こんぺいとう」。ダンスもまじえての歌で、会場は大いに盛り上がりました。続いて、古田代表があいさつ、鈴木事務局長が経過報告を行ったあと、渡辺治一橋大学教授が「新しい政治状況と憲法」と題して記念講演を行いました。最後に集会アピールを採択して閉会しました。



渡辺治さんの講演の内容要旨をまとめてみました。

## 総選挙の結果をどう見るか

### 民主圧勝の背景

今度の選挙をまとめると、構造改革に対する怒りが自公政権をつぶした。第一歩だが第二歩になるかは分からない。憲法の問題もそうです。

構造改革の政治をやめて欲しいという声がなぜ起こったか。アメリカ、イギリス、フランスなど、どこでも世界の企業と争うために自国の大企業を強くしようという政策をとりました。これが構造改革です。企業の競争力を強めるという目的で派遣労働を認めたり、法人税をまけるために福祉、社会保障を削ることを行ったんです。

日本では構造改革前から福祉がもともと弱かった。労働条件がもともと低かった。その結果、他の国に見られないような矛盾と破綻が起こったんです。

## 国民の運動や九条の会が政治を動かした

構造改革がひどくても運動が起こらないと政治は変わりません。反貧困の運動が起こりました。「年越し派遣村」の運動などです。改憲と軍事大国化、自衛隊派兵に対しても反対の運動が起こった。これらが自民党を追い詰めたんです。2004年4月の読売新聞のアンケートでは改憲賛成が65%だったんです。反対は22%しかいなかったんです。2004年5月に九条の会が出来て一年間で2000

の会が出来ました。現在は7500を越えました。読売新聞の世論調査で去年の四月、改憲賛成と反対派が逆転してしまっただんです。08年改憲賛成は42.5%、反対派は43.1%で、これでは改憲できないんです。九条の会がいくら活動してもマスコミは報道しません。報道しないのに7500の九条の会の活動は確実に世論を変えています。それが安倍さんを包囲し、改憲させなかったんだと思います。

## 民主党の方針転換

民主党が大勝した原因のひとつは民主党が変わった、ということです。もともと民主党はこういう政党かというところ、保守政党として登場しました。アメリカの二大政党制のように自民党がだめになったら民主党という受け皿として財界に期待されて出来たんです。構造改革推進を主張していました。それが2007年に反構造改革とイ

ラクから自衛隊撤兵とかテロ特措法延長反対を言い出したんです。そのときの委員長は小沢さんです。小沢さんは選挙で勝つために自民党の構造改革に怒りが渦巻いている今、反構造改革で戦うという方針を出したんです。「消費税は上げない」という方針も彼が出した。

なぜ民主党が方針転換したかといえば民主党のとなりには共産党や社民党がいるからです。民主党としては中途半端では勝てないと考えたんです。

一方で大都市部の上層の人たちは構造改革の政治を変えるのではなくて、民主党に構造改革をやってもらいたいと考えているんです。福祉にお金を使うのではなくて大企業のために使つて景気をよくして赤字をなくして欲しいという考えです。こういう声も民主党を押し上げたんです。

この矛盾する二つの期待が民主党に対してあります。どちらの力が勝つかによって民主党政



権が右に行くか左に行くかが変わってくるという点が重要です。

### 憲法はどうなる？

では憲法はどうなるかという問題です。民主党が憲法の問題でどう対処するか。自公政治に反対する選挙結果からすれば、そう簡単に安倍さんのように改憲を言い出せない状況にあると私は見えています。これに対し甘いという人もあるんです。なぜ甘いと言うかという点、鳩山さんは民主党の中でもきつての改憲派だからです。彼の本音はそうですが、今の国民の声が反構造改革、反軍事大国化だということは百も承知しているはずだと思います。ですから私は彼が名文改憲を言い

出すことはないと思っています。それから来五月、改憲手続法が施行されるのですが、これも簡単ではないと私は見えています。改憲手続法に民主党は最後は反対しました。手続法を実行するための憲法審査会の開催にも麻生政権のもと今年6月強行採決して衆議院に作るうとしたとき民主党はこれに反対しました。民主党政権のもとで一番危険なのは解釈改憲です。財界とアメリカの圧力は大変強いです。憲法を変えないで自衛隊を出す。オバマはアフガンでこれ以上アメリカ兵を死なせたくない。けれども撤退もしたくない。だから日本の派兵を求めてきます。普天間問題でも強い圧力のもと、民主党政権はふらふらし始めました。

### 運動で大事な三つの点

いま国民の暮らしの問題でも憲法の問題でも分かれ道にきています。そういう時、私たち国民の運動が一番重要です。その

うえで三つの点を指摘したい。一つは、アフガン派兵は解釈改憲だということ、普天間基地国外移転をはっきり言うこと。第二は名文改憲しないことを鳩山さんに約束させること。それから憲法審査会を開かせないこと。改憲手続法に反対したのだから抜本的見直しを求めること、こういうことを約束させること、これらは可能です。三番目は改憲を阻むと同時に、憲法9条と25条の理念を実現するための政治、社会を実現する方向に運動が大きく変っていかねればいけないのではないか、という点です。

東久留米  
九条の会  
4周年の  
つどいが  
その第一  
歩となる  
ことを期待しま



参加された方からは、多くの感想が寄せられました。一部抜粋して紹介します。

・新鮮で力強いお話、大変ありがとうございました

・運動のあり方で政治を変えることができる。私たち一人ひとりの意思をしっかりと伝えなくてはならない。

・民主党政権のお話大変わかりやすく興味深く拝聴させていただきました。民主党政権への国民の期待値は高いようですが、今後の動きを注意深く見守っていかなくてはと思います。今日から政治のニュースをいっそう面白く見ていけそうです。手足の議員さん応援します。

・民主党の頭、胴体、手足の話が、とてもわかりやすくよかったです。「7割のお風呂」これは、私たちの運動で率を変えていかないと、自民党にもどるのだけは嫌です。

・有難うございました。戦争を、恐怖として幼児を過ごした人間として、九条改憲反対を進めて行きます。

・9条を守るだけでなく、9条と25条を実現する運動に発展する必要があります。あるという指摘は、いま本当に大事だと思いました。

・あつという間の一時間半、ありがとうございました。

◆リレー投稿

## 私の戦時下

### 私の戦争 今思うこと

吉田ヨシ子

(野火止在住 98歳)

「ぜいたくは敵だ」と、小さいころよりそう育てられ、未だに其の気持ちは抜けません。青春時代、男性に付け文された時

父に「お前に隙が有るからだ」と叱られる程、厳しい親でした。

其れに、戦争に明け暮れた年頃でしたから、楽しい思い出より思い出したくない事の方が多い時代でした。戦前、戦中、戦後、殊に戦中など、在郷軍人に、竹槍の訓練に一家から必ず一人かり出され、酷い訓練を受けました。「何だッ、其の尻つびり腰ワッ」と小突かれ、「其れで米兵が刺せるのかッ」と何も言い返せないのの良い事に・・・。

竹槍で米兵ならぬ此の人を刺してやりたい気持ちになったり、戦争とは人間が人間で無く成ります。

着の身着のまま、防空壕での食事はあたり前、ただ腹一パイ食べたい気持ちは何時もの事。敵の飛行機がいつ海の方から飛んで来るか、何時空襲警報が鳴り渡るか、何時も緊張した気分から解かれる事は無い。

知っている人でしたが家族七人、防空壕の入り口が敵の飛行機から焼夷弾の直撃を受け、メチャメチャにされ、全家族死亡、誰の指の爪も無かったのと、どんなに壕から出ようとしましたが、今でも考えると泣けてきます。

小学校の校長先生は、学校の正面玄関で仁王立ちのまま機銃掃射で即死でした。とにかく戦争は如何なる理由が有るにせよ、さけるべきです。宇宙開発より先に戦争の無い地球に成る

為、人類は知恵を絞ってほしいです。

此の度の衆院選挙で、民主党が単独議席308で政権交代を果たしました。一言で云えば、国民大衆に嫌われると云う事はこうも成るものなのかと、啞然たる心地です。

昔と違い今の大衆は自由が有る。制約は有っても昔とは違う、幸せの為ならやりがいが有ると云うもの。のびのびと人生を楽しんでください。そして自分より困っている人が居たら一人でもいい、勇気づけてあげて下さい。

平成21年9月2日

